

## 焼岳の火山活動解説資料（平成 30 年 10 月）

気象庁地震火山部  
火山監視・警報センター

噴気活動に特段の変化はなく、地震活動も低調に経過しています。しかし、2017 年 8 月上旬に、規模は小さいながらも浅部を震源とする低周波地震とともに噴気が観測されました。その後、低周波地震は観測されていませんが、今後の火山活動の推移に注意してください。  
噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・噴気など表面現象の状況（図 1、図 3-①、図 5）

噴気活動に特段の変化はありません。

北陸地方整備局が設置している焼岳北監視カメラ（焼岳の北北西約 4 km）による観測では、北峰付近の噴気孔からの噴気の高さは概ね 80m 以下で経過しています。黒谷火口では、50m 以下の噴気をとときどき観測しています。同局設置の焼岳南西斜面監視カメラ（焼岳の西南西約 2.5km）による観測では、岩坪谷上部の噴気孔からの噴気の高さは概ね 50m 以下で経過しています。

#### ・地震や微動の発生状況（図 2、図 3-②、図 4）

山頂付近の地震活動は低調に経過しており、火山活動に高まりは認められません。  
火山性微動は観測されていません。

#### ・地殻変動の状況（図 3-③~⑤、図 5）

GNSS<sup>1)</sup> 連続観測や傾斜計による観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

1) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPS をはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

---

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ ([https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php)) でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（平成 30 年 11 月分）は平成 30 年 12 月 10 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、北陸地方整備局、国土地理院、京都大学、名古屋大学、東京大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『2万5千分1地形図』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 29 情使、第 798 号）。また、同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号：平 29 情複、第 958 号）。



図1 焼岳 山頂部及び南西斜面の状況  
 （上左図：10月13日 焼岳北監視カメラ、上右図：10月20日 焼岳東監視カメラ、  
 下図：10月11日 焼岳南西斜面監視カメラ）

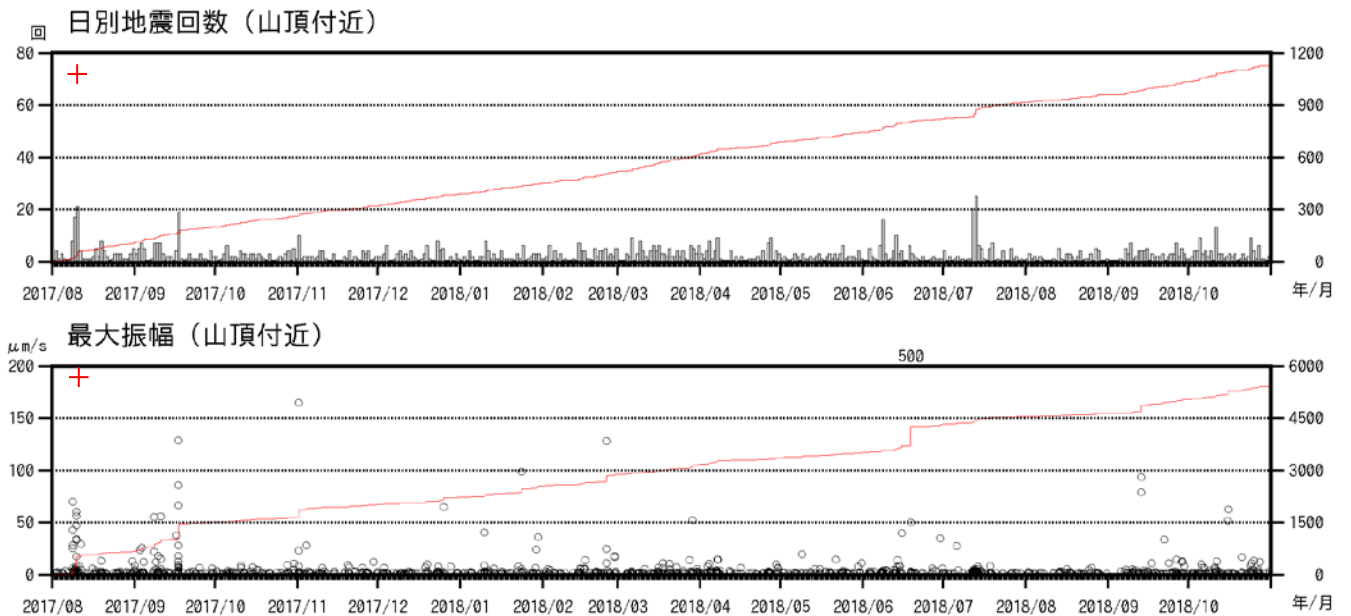


図2 焼岳 山頂付近の地震回数、その積算および南峰南東観測点上下動最大振幅、その積算  
 （2017年8月1日～2018年10月31日）

山頂付近の地震とは、南峰南東1.0 $\mu$ m/s以上で、焼岳山頂付近を震源と推定される地震のことです。  
 なお、2017年8月にさかのぼって、山頂付近の地震回数を含めて計数しています。

- +：黒谷火口でみられた噴気活動に伴う浅部の低周波地震
- ・山頂付近の地震活動は低調に経過しています。

【地震の計数基準の変遷】		
開始	2010年8月2日～2010年9月21日	中尾振幅 0.5 $\mu\text{m/s}$ 以上、S-P 2秒以内
変更①	2010年9月22日～2011年3月10日	中尾振幅 0.5 $\mu\text{m/s}$ 以上、S-P 1秒以内
変更②	2011年3月11日～2013年9月30日	中尾振幅 3.0 $\mu\text{m/s}$ 以上、S-P 1秒以内
変更③	2013年10月1日～2017年7月31日	中尾振幅 2.0 $\mu\text{m/s}$ 以上、S-P 1秒以内
変更④	2017年8月1日～2018年7月31日	中尾振幅 2.0 $\mu\text{m/s}$ 以上及び 南峰南東振幅 1.0 $\mu\text{m/s}$ 以上、S-P 1秒以内
変更⑤	2018年8月1日～	南峰南東振幅 1.0 $\mu\text{m/s}$ 以上、S-P 1秒以内

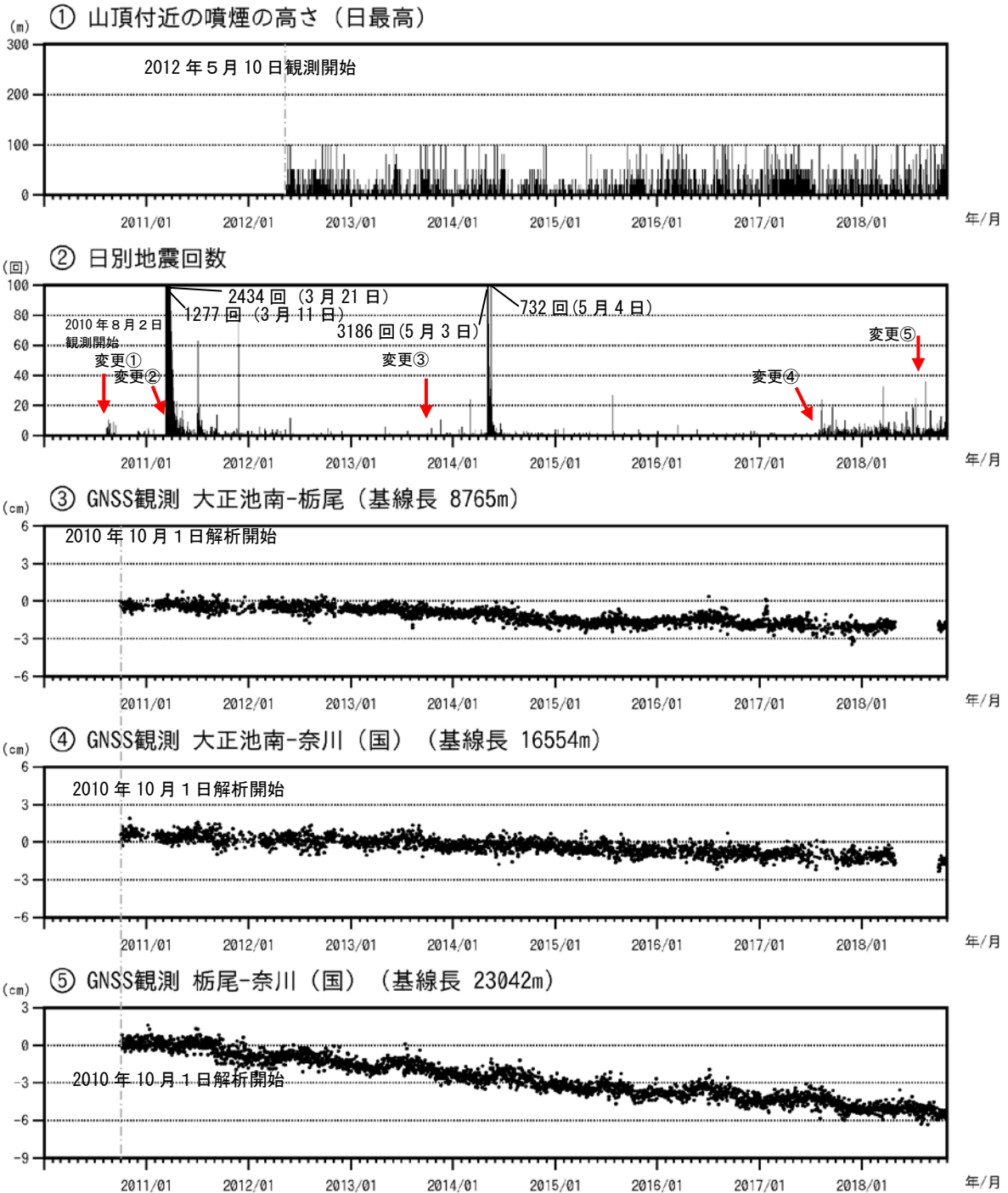


図3 焼岳 火山活動経過図（2010年8月2日～2018年10月31日）

③～⑤ GNSS 連続観測による基線長変化 (国)：国土地理院

図5のGNSS基線③～⑤に対応しています。グラフの空白部分は欠測を示します。

平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震によるステップを補正しています。

- ・「平成 23 年(2011 年)東北地方太平洋沖地震」以降、焼岳周辺で地震活動が活発な状況となりましたが、その後、地震活動は低下しました。
- ・日別地震回数について、2017 年 8 月以降は山頂付近の地震回数を含めて計数しています。

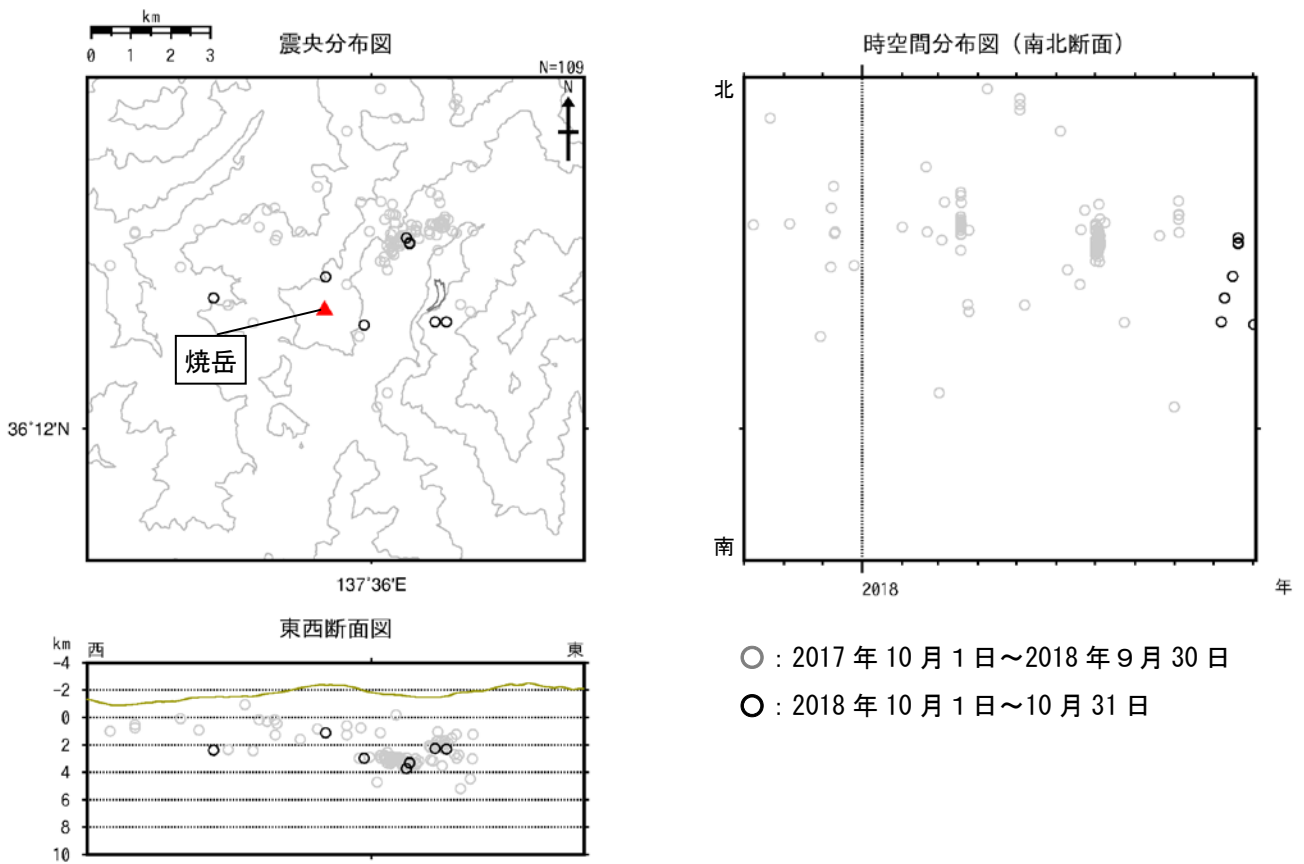


図4 焼岳 震源分布図（2017年10月1日～2018年10月31日）  
・地震活動は低調に経過しています。

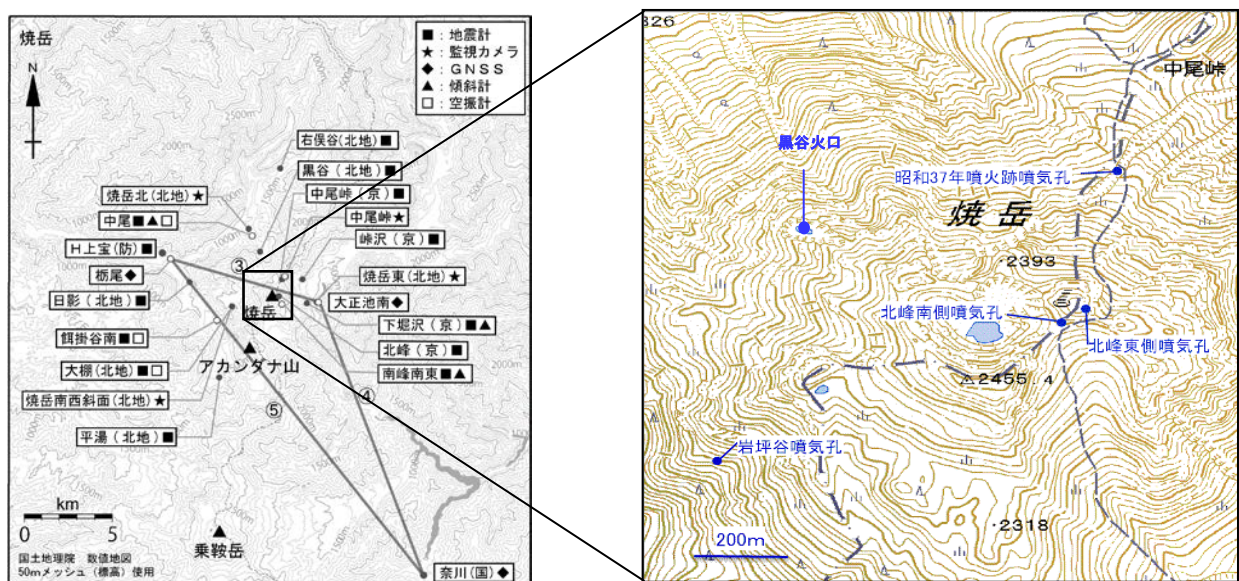


図5 焼岳 観測点配置及び噴気孔位置  
GNSS 基線③～⑤は図3の③～⑤に対応しています。